

## 学内研修：行動情報学に基づいたシミュレーション体験

|     |   |
|-----|---|
| 著者  | 喜多野 哲也  |
| 雑誌名 | 技術報告  |
| 巻   | 22  |
| ページ | 69-69   |
| 発行年 | 2017-03-10  |
| 出版者 | 静岡大学技術部   |
| URL | <a href="http://doi.org/10.14945/00010258">http://doi.org/10.14945/00010258</a> |

# 学内研修「行動情報学に基づいたシミュレーション体験」

喜多野 哲也

技術部 情報支援部門

## 1. はじめに

東海北陸地域の研修に先立ち、ノウハウ取得と研修参加者にシミュレーション経験者を含ませる必要があったため学内研修を2回実施した。

## 2. 行動情報学に基づいたシミュレーション体験 1

2.1 実施日時：8月4日(木)9:00-11:30

講師：井ノ口講師(情報学部行動情報学科)

参加者：高柳、原、大石、嶋田、喜多野

2.2 実施内容

防災情報の専門家の情報学部井ノ口講師を含め避難所 HUG を体験後に行動情報学の視点でのミニ講演を実施した。

2.3 得られた成果

防災情報の専門家の立場から避難所 HUG 実施に関してのコメントを頂いた。2016年3月に発生した熊本地震では一日後には現地で情報収集活動を開始し、状況分析を行った体験は参考になった。旅行者や住所不定者などが避難所に来た場合、極力受け入れる方向で対処する必要があること。小さな避難所であっても報道統制を取る必要があることが理解でき、現場に即した情報管理(統制)の必要性を認識した。避難所 HUG によるシミュレーション体験の意味合いの理解も深まった。

## 3. 行動情報学に基づいたシミュレーション体験 2

3.1 実施日時：8月22日(月)9:00-11:30

講師：神谷主査、吉田主査(静岡県西部危機管理局)

参加者：草薙、深見、嶋田、上田、大石、江上、原、高柳、喜多野

3.2 得られた成果

8月4日の一回目の研修と違い2つのグループに分かれて静岡県西部危機管理局が実施している形式で研修を行えた。実施後の質疑応答でグループ毎の差異を議論できた。また、使用する白板は直接書込むのではなく消されないように掲示板として紙を張り付けて利用することなど実施方法の参考になった。

## 4. 謝辞等

4.1 本研修にご協力頂き無事東海北陸地域の研修を実施できました。静岡県西部危機管理局および行動情報学科井ノ口先生、ご参加の技術部の皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

4.2 使用機材：避難所 HUG 「みんなのお店・わ」(NPO 法人静岡県作業所連合会・わ店舗)